

Medical Library

書評新刊案内

本紙紹介の書籍に関するお問い合わせは、医学書院販売・PR部(03-3817-5650)まで
なお、ご注文は最寄りの医学書院特約店ほか医書取扱店へ

「胃と腸」式 読影問題集2023 応用と発展 考える画像診断が身につく 胃と腸 Vol.58 No.10 2023年10月号 増大号

定価:7,920円(本体7,200円+税10%) 医学書院

評者 市原 真
札幌厚生病院病理診断科主任部長

羽田空港に降り立ち、京急にて品川方面へ向かったあの日のことを私は今なお鮮明に覚えている。泉岳寺。長いエスカレーター。壁面の鏡でネクタイ

書評ってもっと冷静に書いたほうがいいですよと言われ



拡大へ、空気量を変化させながら病変のマクロ形態を「独りよがりではない」読影用語で鋭く読み解き、しかし決して冗長にならぬよう必要十分な時間で

述べるべし。時代とともに研ぎ澄まされていく各種の画像強調観察。パターン分類を用いて統計学的に診断名を類推する試みは診断の均てん化に大きく貢献する。しかし、真の「読影者」は、パターン分けでお仕着せの分類を済ませることなく、X線・内視鏡所見から病理組織像がイメージできるような「意味の濃い読影」で会場を酔わせる。

本書には、早胃研の熱気と知力が脈々と受け継がれている。「腺頸部になんらかの細胞浸潤があれば腺管はヒザカクンを受けたようになって頭が乱れるはずでしょう」。「表層に薄皮一枚非癌の上皮が覆っていて奥に何か液状のものを包んだ構造があるために透明感が出てくるのではないのでしょうか」。ああ、他人に薦めたい。しかし、もはや、絶句してしまう。記憶があふれてばかりだ。思い入れがありすぎる。こういうやりとりをずっと聞いて私は育ったのだから。申し訳ない。これは書評ではない。書評をしたい。

を直す。受付で1000円。緩やかな斜面。足早に前方右端の定位位置。繰り広げられる喧々譁々の議論と、画像・病理対比。早期胃癌研究会(人呼んで早胃研)の熱気は私の眼鏡に結露を起こした。私は明かりの落とされた笹川記念会館大ホールの片隅で、ハンディライトで手元の抄録を照らし、読影者のコメントを一言一句書き留めた。旭川のサイトウですけれども。佐久のオヤマですが。広島大学のタナカですけれども読影以前にまず写真のピントについて。病理のワタナベです。最前列でマイク前に立つ人びとの、顔を知る前にまず口調を覚え、それから読影や病理解説の筋道を身につけた。見取り稽古の10余年。消化管形態学はここで教わった。

本書に満ちる気迫と理念はまさに早胃研だ。美しく「物言いたげ」な臨床画像の数々。病変にすぐ飛び付くことなかれ、「背景粘膜」を読み落としては読影委員から愛の鞭を受ける。白色光観察から色素撒布へ、弱拡大から中

第31回総合リハビリテーション賞決定

第31回総合リハビリテーション賞贈呈式が2023年9月26日、医学書院(東京都文京区)にて行われた。本賞は、『総合リハビリテーション』誌編集顧問の上田敏氏が東大を退官する際(1993年)に金原一郎記念医学医療振興財団へ寄付した基金を原資として発足。2022年発行の同誌に掲載された全22編の投稿論文を対象に、最も優れた論文に賞が贈られた。



◆外出自粛・行動制限が下肢・体幹の応用動作能力を低下させる可能性

受賞論文は、大石祐也氏(西宮協立デイケアセンター ほぼえみ/言語聴覚士)他による「COVID-19対策の外出自粛・行動制限期間にみられた通所リハビリテーション事業所利用者のTimed Up & Go Testの延長」[総合リハビリテーション. 2022; 50(10): 1231-7.]である。

氏らが勤務するデイケアセンターでは3か月ごとにBody Mass Index(BMI)、握力、Timed Up & Go Test(TUG)、30秒椅子立ち上がりテスト、Barthel Index、6か月ごとにLife Space Assessment(LSA)を計測している。受賞論文ではCOVID-19拡大前後の2019年7月~21年6月の期間、継続して通所していた利用者69人を対象に、①19年7月、②20年4月(初回緊急事態宣言発出直前)、③21年6月(第3回緊急事態宣言解除後)の3時点の計測値を用いて解析が行われた。結果、町外への活動を反映するLSA5の値が緊急事態宣言発出による行動制限で統計的有意に減少するだけでなく、下肢・体幹の応用動作を反映するTUGの値も行動制限により統計的有意な延長がみられた。これらの結果から、COVID-19対策の外出自粛・行動制限による下肢・体幹の応用動作能力の低下が示唆された。

『総合リハビリテーション』誌編集委員を代表して高岡徹氏(横浜市総合リハビリテーションセンター)は、「本研究は、COVID-19との3年以上にわたる「闘い」と言っても良い状況の中で行われた、まさに時宜に合ったものである。さらに前例のない外出制限・行動制限が実施されたなかで、高齢・障害者の機能は低下していないのかという、われわれリハビリテーション専門職の素朴な、かつ切実な疑問を明らかにした研究である」と講評した。受賞のあいさつで大石氏は、本研究にかかわった職場の同僚や共著者、同誌編集委員に感謝の言葉を述べ、「これからも本賞に恥じぬよう、臨床的なデータをしっかり見ながら利用者、患者とかかわり、西宮から日本に発信していきたい」と決意を語った。

『総合リハビリテーション』誌では2023年にも、同年に掲載された投稿論文から第32回総合リハビリテーション賞を選定する。同賞の詳細については同誌投稿規定を参照されたい。

「診断へのアプローチ」の日本語がいちいち美しい。「臨床経過」があるから総合合わせゲームではない臨床の厚みが伝わるので素晴らしい。「プラスONEポイント」は卓越したミニレビューの様相であり本書の華である。「鑑別診断の考え方」、ああ、「の考え方」を付け加えた先生はどなたですか?素晴らしいナッジだと思います。感服しました。

Zoomにより研究会は様変わりし、北の地に住む私が泉岳寺を訪れる機会は減った。一抹の寂しさを埋めてくれたのが本書だ。シリーズ前作(2023年4月増大号)の「基本と応用」に続き、今回堂々と「応用と発展」と冠した先生はどなたでしょうか、エモすぎてエモが渋滞です。書評なんてできないよ。好き過ぎて。

●書籍のご注文・お問い合わせ

本紙で紹介の書籍についてのお問い合わせは、医学書院販売・PR部まで
☎(03)3817-5650/FAX(03)3815-7804
なお、ご注文につきましては、最寄りの医学書院特約店ほか医書取扱店にて承っております。

毎日出版文化賞《企画部門》受賞

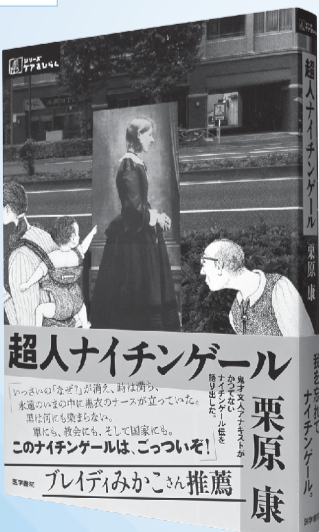
シリーズ ケアをひろく

最新刊 2冊同時発行!!



詳細はこちらから

超人ナイチンゲール



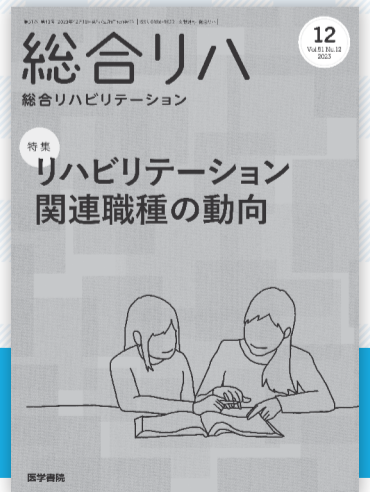
わたしが誰かわからない ヤングケアラーを探そう

医学書院

リハビリテーション領域をリードする総合誌

総合リハビリテーション

- ★リハビリテーションに携わるあらゆる職種に向け特集形式で注目の話題を解説します。
- ★充実した連載ではリハビリテーションをめぐる最新知識や技術を簡潔に紹介します。
- ★雑誌電子版(MedicalFinder)は創刊号から閲覧できます。



12月号 特集 リハビリテーション 関連職種の動向

■月刊、年12冊
2024年通常号定価: 2,640円(本体2,400円+税10%)

年間購読 なら 送料無料!	冊子	29,040円(本体26,400円+税10%)
	冊子+電子	32,340円(本体29,400円+税10%)
	電子	27,720円(本体25,200円+税10%)

雑誌の詳細はホームページをご覧ください



医学書院